



2011年8月27日に韓国・大邱(テグ)で開催する「第13回 世界陸上競技選手大会」の男子マラソンに、当社陸上部 中本健太郎選手が出場します。
男子マラソンの日程は9月4日(日)です。皆様の応援をよろしくお願ひします。
今回、中本選手の壮行とあわせて、所属する安川電機陸上部を紹介します。

中本健太郎 世界陸上に挑む!

応援よろしくお願ひします。

中本選手のマラソン実績

'08年 延岡西日本マラソン	3位 (2:13:54)
北海道マラソン	2位 (2:15:21)
'09年 東京マラソン	9位 (2:13:53)
'10年 別府大分毎日マラソン	8位 (2:11:42)
アムステルダムマラソン	9位 (2:12:38)
'11年 びわ湖毎日マラソン (兼 世界陸上代表選考レース)	4位 (2:09:31)

◆ 安川電機陸上部公式ホームページ:

<http://www.yaskawa.co.jp/activities/track-field/index.html>

安川電機陸上部メンバー:



飛松 誠

小畑 昌之

中本 健太郎

立石 慎士

黒木 文太

北島 寿典

平野 護

中野 良平

久保田 大貴

種子野 輝夫

小崎 光舟

山園 翔

デスタ アレム

平山 竜成

年度

1974 安川電機 陸上部創部

'76 「全日本実業団駅伝」
初出場

'78 「全日本実業団駅伝」
に初入賞(7位)

'85 井上文男が監督に就任

'90 「九州実業団毎日駅伝」
で初の2位入賞
「全日本実業団駅伝」で
初の3位入賞

'93-'95
「全日本実業団駅伝」で
8位、7位、6位と入賞

'96-'98
「全日本実業団駅伝」で
13位、18位、19位と低迷

2001-2002
「九州実業団毎日駅伝」で準優勝

'03 「全日本実業団駅伝」で
31位と過去最悪の結果

'04 「九州実業団毎日駅伝」で2位、
「全日本実業団駅伝」11位と復活

'06 「九州実業団毎日駅伝」で念願の優勝、
「全日本実業団駅伝」7位入賞

'07 「全日本実業団駅伝」4位入賞

'08 山頭コーチが監督に就任、
中本選手「北海道マラソン」で2位入賞

'09 「全日本実業団駅伝」27位

'10 「全日本実業団駅伝」4位入賞
中本選手「世界陸上競技選手大会」の
マラソン日本代表として選出



93年度「九州実業団毎日駅伝」でゴールする原口

創部、初チャレンジ

1974年創立。設立当初は有力な高校や大学から選手を獲得することも厳しく、社内から選手を募るという苦難の船出でしたが、駅伝初チャレンジのレース(第22回・日田〜中津駅伝競走大会)では24チーム中11位と健闘しました。

5年目にして全国7位の快挙

1970年代、当時の九州陸上長距離界は、旭化成、新日鐵八幡、そして九州電工(現・九電工)の三強時代。これらの強豪に追いつくことを目標に、井上文男(前監督)をはじめ有望な選手を獲得。そして迎えた1976年度、創部3年目にして念願の「全日本実業団駅伝」初出場を果たし、初めての挑戦で総合19位という結果を残しました。1978年度は3回目のチャレンジにして7位入賞を果たしました。時代は不況下にありましたが、全社を挙げての温かい支援をうけて若手選手も順調に力を伸ばし、「全日本実業団駅伝」にも安定して出場を果たすことで、旭化成、九州電工に次ぐ九州第三のチームとしての基盤を築きました。



80年代前半を支えた選手たち

苦難を経て若手が成長、全国3位に

1985年度、井上文男が監督に就任。1986〜1988年度の間、「全日本実業団駅伝」では20位台に低迷する中、現監督の山頭直樹が入部しました。彼をはじめとした若手が順調な成長をみせ、安川電機創立75周年を迎えた1990年度「九州実業団毎日駅伝」で初の2位入賞。この勢いをそのままに、元日に開催された「全日本実業団駅伝」では3位入賞という快挙を成し遂げました。

新勢力台頭、常勝 旭化成を追う

1993〜1995年度にかけて、「全日本実業団駅伝」で安定して入賞を果たしてきましたが、この頃九州の陸上長距離界は様変わりしようとしていました。1995年度に強豪ダイエーが本拠地を福岡に移転し大がかりなチーム強化に乗り出すなど、新興チームが次々と台頭。

当社チームは常勝旭化成を追うには、次世代の柱となる選手の出現が望まれていました。

1990年代後半、チームの顔ぶれも様変わりし、若手選手にシフトしていく中、苦しみながらも何とか「全日本実業団駅伝」の出場を果たすものの、本大会では20位前後の順位から浮上することができませんでした。そんな中、2001、2002年度と連続で「九州実業団毎日駅伝」準優勝と復活の兆しが見られたかに思えましたが、2003年度の「全日本実業団駅伝」では31位と過去最悪の結果に終わってしまいました。



94年度「全日本実業団駅伝」を7位でゴールする依田

「リベンジ」をスローガンに

創部30年目の節目となる2004年度は「リベンジ」をスローガンに、チーム一丸となって汚名を返すべく駅伝に取り組みました。そして迎えた「九州実業団毎日駅伝」では、最終区まで旭化成と大接戦を演じ、念願の初優勝までわずか17秒差の2位。「全日本実業団駅伝」では11位と復活への確かな手応えを得ました。

そして2006年度、創部32年目にしてついに念願の「九州実業団毎日駅伝」で優勝! 自らを信じ仲間を信じてタスキをつなぎ走りきった選手たち、みなぎる自信と誇りを手にしました。この年の「全日本実業団駅伝」では7位入賞、翌07年には4位入賞を果たしました。

若手選手の活躍に期待。

2年連続で「全日本実業団駅伝」入賞を果たし駅伝での強さを発揮するなか、新たに就任した山頭監督のもと、これまで後手にまわっていたマラソン選手の育成・強化に着手。2008年の「北海道マラソン」で中本選手が堂々の2位入賞を果たしました。



10年度「全日本実業団駅伝」のスタートに向け気合いが入る中野選手(左)と、粘りの走りでも上位入賞を確実にした4区の中本選手(右)。



↑ 07年度千葉、福岡のクロスカントリーで日本人トップを走る飛松



← 06年度「九州実業団毎日駅伝」初優勝のゴールテープを切る立石